

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	中央障害者社会参加推進センター運営事業			担当部局庁	社会・援護局 障害保健福祉部			作成責任者		
事業開始年度	平成2年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画課 自立支援振興室			田仲 教泰		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	「高度情報通信等福祉事業費補助金(中央障害者社会参加推進センター運営事業)交付要綱」					
主要政策・施策	障害者施策			主要経費	社会保障					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	障害者相談員研修の実施、障害者110番研修の実施、「都道府県障害者社会参加推進センター」(以下「地方センター」という。)が行う障害者の社会参加推進事業への助言指導を行うことにより、社会参加推進事業の一層の普及を図ることを目的とする。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○ 中央障害者社会参加推進センター((社福)日本身体障害者団体連合会に設置。以下「中央センター」という。)が行う次の事業に国庫補助(10/10)する。 ① 障害者相談員研修の実施、 ② 各地方社会参加推進センターの障害者110番事業担当者を対象とした「障害者110番事業中央研修」の実施 ③ ①②その他の地方センターが行う社会参加推進事業の効果的な実施のための指導助言									
実施方法	補助									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	21	20	20	18	23			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		21	20	20	18	23			
	執行額		21	20	20					
執行率 (%)		100%	100%	100%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		100%	100%	100%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由						
	身体障害者福祉費補助金	18	23	「新しい日本のための優先課題推進枠」5ユニバーサルデザイン2020行動計画をふまえ、心のバリアフリーの普及、啓発に向けた地方の社会参加推進センターの職員に対する中央研修を行うことによる増。(推進枠)						
	計	18	23							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度	
	引き続き平成29年度に障害者相談員研修会の参加者数の目標値を達成する	障害者相談員研修会の参加者数	成果実績	人	1,717	1,568	1,662	-	-	
			目標値	人	1,500	1,500	1,500	-	1,500	
			達成度	%	114	105	111	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	補助金実績報告									
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度	
	平成29年度に地方センターの障害者110番事業担当者を対象とした「障害者110番事業中央研修」の参加者数を56人までに引き上げる	地方センターの障害者110番事業担当者を対象とした「障害者110番事業中央研修」の参加者数	成果実績	人	35	46	47	-	-	
			目標値	人	56	56	56	-	56	
			達成度	%	63	82	84	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	補助金実績報告									
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	障害者相談員研修会の実施回数	活動実績	回	6	6	6	-	-		
		当初見込み	回	6	6	6	6			
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	地方センターの障害者110番事業担当者を対象とした「障害者110番事業中央研修」の実実施回数	活動実績	回	1	1	1	-	-		
		当初見込み	回	1	1	1	1			

単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込
	X/Y X:「障害者相談員研修会の助成額」 Y:「同研修会の参加者数」	単位当たりコスト	円	4,364	4,698	4,312	5,046
		計算式	円/人	7,492,224/1717	7,365,911/1,568	7,167,348/1,662	7,569,000/1,500

単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込
	X/Y X:「障害者110番事業中央研修の助成額」 Y:「同事業の参加者数」	単位当たりコスト	円	158,049	114,557	106,151	102,304
		計算式	円/人	5,531,708/35	5,269,635/46	4,989,077/47	5,729,000/56

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	必要な保健福祉サービスが的確に提供される体制を整備し、障害者の地域における生活を総合的に支援すること							
	施策	Ⅷ-1-1 障害者の地域における生活を総合的に支援するため、障害者の生活の場、働く場や地域における支援体制を整備すること							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
	定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)					

本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
<p>①地方センターが行う障害者の社会参加推進事業の効果的かつ円滑な推進を図るため、当事者団体で構成される(社福)日本身体障害者団体連合会が設置する「中央障害者社会参加推進センター」(以下「中央センター」という。)に対して国庫補助(10/10)を行い、地方センターに対する助言指導・研修等の実施、全国の社会参加推進事業の実施状況の把握、障害者の社会参加の推進に資する情報の収集及び提供等を行う。</p> <p>②運営に関する基本的事項などを身体、知的及び精神の各障害者関係団体及び学識経験者等から構成される中央障害者社会参加推進協議会に諮って運営を行う。</p> <p>「障害者相談員研修会」では、学識経験者や専門家等の講演、障害者相談者による事例発表を中心とした意見交換等を実施しており、当該研修会に参加することにより、相談員活動の充実強化が図られるとともに、障害者の自立と社会参加の促進を図ることができると見込んでいる。</p>								
改革項目	分野:	-	-					
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係								

事業所管部局による点検・改善

国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	障害者基本法第1条及び第3条第1号において、障害者が社会を構成する一員として社会参加等の機会が確保されることを旨として、共生社会の実現を図るとされており、各事業を実施することによって、障害者の社会参加を促進するため、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	地方センターが実施する障害者の社会参加推進事業が効果的かつ円滑に展開されるよう、必要な助言指導等を行い、社会参加推進事業の一層の普及を図るためには、地方自治体等だけでは困難であり、国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	障害者の社会参加推進事業が効果的かつ円滑に展開されるよう、必要な助言指導を行うとともに、研修等を行い、社会参加推進事業の一層の普及を図るために必要な事業であり、障害者基本法第3条第1号に障害者は社会参加の機会が確保されること旨としてを共生社会の実現を図るとされていることから事業の優先度は高い。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	事業内容を十分に実現しうる団体に対して、補助金を交付している。					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	各地方社会参加推進センターや障害者関係団体の相談員を対象とした「障害者相談員研修会」は、社会参加推進の中核をなすものであり、その必要最低限の額を確保しているところである。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	中央センターが地方センターに対して実施する助言指導、研修は、障害者の社会参加推進事業のより一層の普及が目的であり、その支出は適切に実施されている。					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	中央センターが地方センターに対して実施する助言指導、研修等に必要経費のみが計上され、適切に事業が実施されている。					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	ホームページの運用の改善を行い、コスト削減を図ったところである。						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	障害者相談員研修会の参加者数について目標値を上回る成果実績となっている。障害者110番事業中央研修の参加者は目標値を下回った。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	学識経験者等で構成される中央障害者社会参加推進協議会が各事業について助言指導を行うことにより効果的な事業実施を担保している。					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	地域で必要とされる障害者相談員のための研修について、当初の見込みどおりの活動実績となっている。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	所管府省名	事業番号	事業名	-	-	-	-
所管府省名	事業番号	事業名						
-	-	-						
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の地域生活支援事業として実施される「都道府県障害者社会参加推進センター」が行う障害者の社会参加推進事業が効果的かつ円滑に展開されるよう、必要な助言指導、研修について、毎年度事業計画を策定し、事業が適正に実施されている。 ・事業実績報告書により、事業に要した経費の内容(人件費等)や事業の実施状況(研修内容等)などを把握している。 ・活動指標である「障害者相談員研修会」の参加者数については、毎年度当初見込みを上回る実績を上げており、補助内容に沿った事業実績をあげ、事業の目的を果たしている。 ・中央障害者社会参加推進協議会(身体障害者・知的障害者・精神障害者の当事者・家族団体及び支援団体並びに学識経験者等から構成される協議会)を設置し、中央センター事業の運営に関すること及び実施する各事業についての助言指導を行っている。 						
	改善の方向性	中央障害者社会参加推進協議会(身体障害者・知的障害者・精神障害者の当事者・家族団体及び支援団体並びに学識経験者等から構成される協議会)を設置し、中央センター事業の運営に関すること及び実施する各事業についての助言指導を行うことにより、引き続き、事業の適性実施を図る。また、障害者110番事業中央研修については、全都道府県数である47人まで実績を向上させたが、引き続き参加を働きかけていきたい。						
外部有識者の所見								
点検対象外								
行政事業レビュー推進チームの所見								
通現り状	引き続き必要な予算額を確保した上で、適正な執行に努めること。							
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況								
現り状通	-							
備考								
関連する過去のレビューシートの事業番号								
平成22年度	507	平成23年度	460	平成24年度	403			
平成25年度	762	平成26年度	760	平成27年度	776			
平成28年度	743							

